

＼マンガピットで読めます／

これも学習マンガだ！ 大人も学べるマンガ入門

第31回

マンガピットを運営する一般社団法人マンガナイトの連載です。



ジャンル：生命と世界

『漂流教室』

著者：楳図かずお

出版社：小学館



企画監修：山内康裕

(マンガナイト代表・「これも
学習マンガだ！」事務局長)

構成：鈴木史恵(マンガナイト)

二〇二四年十月に亡くなった楳図かずおさんは、その特異な作風と強烈な個性で、マンガ界に独自の存在感を放ち続けたマンガ家でした。中でも「ホラーマンガ」というジャンルを育て、その第一人者として長く活躍したひとりであったことは、ご本人のユニークなキャラクターとともに、多くの人の記憶に刻まれているでしょう。『漂流教室』は、そんな楳図さんの代表作のひとつです。

主人公・高松翔を含む児童八六二人とひとりの幼児は、ある日突然、小学校ごと荒廃した未来の世界に転送されてしまいます。事態を受け入れられずに自滅していく大人たちを尻目に、翔たちは衝突しながらも団結し、生き延びる術を探っていきます。「怪虫」などの異形の生物や、唯一生き残った醜悪な大人・関谷の言動、さらには子どもたちの間にも生じる争いなどの描写には、ホラー作家としての楳図さんの手腕が存分に発揮さ

れ、怖い！と思いつつも、読み進める手を止められなくなります。しかし本作は、単なる「コワ面白い」ホラーマンガにとどまらない、重層的な魅力を持っています。恐ろしい未来がなぜ訪れたのか、それを防ぐことはできるのかという問い、なりふり構わず翔を支えようとする母親の姿、混乱の中で成長していく子どもたちのたくましさには、大人の読者こそが、強く心を揺さぶられるでしょう。

物語終盤、翔たちがかつてのテーマパーク跡で、ロボットに「元の世界に帰る方法」を尋ねる場面があります。その会話は、現在の私たちが生成AIと会話をする姿にも重なります。楳図さんの想像力の鋭さに驚かされると同時に、それはこの作品に描かれる荒廃した未来が、現実になることもあり得る…という警鐘にも思えます。『漂流教室』は、未来を担う世代に何を手渡すのか、いま一度、私たち大人に問いかける作品なのです。



マンガピット!

Manga Edutainment

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

「これも学習マンガだ!〜世界発見プロジェクト〜」に選出された作品を中心に学びにつながるマンガや学習マンガを楽しめる読書空間です。
名作から近年のおすすめマンガまで約350作品をそろえました。
かつてトキワ荘のあったエリアで、ゆっくりとマンガを楽しんでみませんか？



これも学習マンガだ!
Manga Edutainment

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

